

令和4年度定時評議員会議事録

開催日時：令和4年5月28日（土） 14：00-15：40

開催場所：練馬区民・産業プラザ 研修室1

【開会の辞】

定刻に司会者小倉扶美子理事より令和4年度定時評議員会の開催が宣言された。

（参加者全員でテープ音源に合わせて校歌を黙唱）

【定足数の確認】

令和3年度の評議員総数は開催案内送付時 521 名であったが、逝去者 1 名、宛先不明者 4 名が判明し、今回の評議員会に対する評議員総数は 516 名となった。現在出席者 38 名、議長及び出席評議員への委任状 93 名、事前議決権行使者 102 名の合計が 233 名となり、いずみ会規約 13 条に基づく定足数 172 を満たしている旨、棟方隆一理事より報告され、本評議員会が適正に且つ正式に成立したことが確認された。（最終出席者は 40 名）

【荒井会長挨拶】

「皆さんこんにちは。3年ぶりに対面での評議員会が開催できたことに感謝します。現役員はこの2年間で初めてで最後の対面での活動となりました。今後もいずみ会の活性化に向けて役員全員で精一杯努力して行きますので、ご協力をお願いします。本日は評議員の皆さんの厳正なご審議をお願いします。」

【来賓紹介】

司会より学校及び PTA 役員のメンバーが紹介され、当日は浜田浩和高等学校副校長と高等学校・附属中学校 PTA の平井貴美代副会長が出席された。

【浜田副校長ご挨拶】

「日頃よりいずみ会の皆様には本校の教育活動に関して一方ならぬご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。大泉高校は今年で創立 82 年目、附属中学校は今年で創立 13 年目を迎えます。10 月 3 日に 80 周年の記念式典を練馬文化センターで開催予定でありましたが、コロナ禍で規模の縮小を余儀なくされ、「祝う会」として校内で開催する事となりました。会への出席は最小限という事で、来賓としてはいずみ会会長及び PTA 会長のみとなります。令和4年度から高校の生徒募集が中止となり、中学の生徒募集は 120 名から 160 名に変更となります。今までは高校からの募集で 2 クラス、中学からの進学で 3 クラス、高校の一学年は合計 5 クラスでありましたが、今年から高校からの募集がないため高校の一学年は 3 クラスとなります。この状態が 3 年間続き、令和 9 年度に全学年 4 クラスの完全な中高一貫校となります。本年度も感染防止対策を継続しての学内活動ですが、5 月 25 日に 3 年ぶりに全 6 学年の生徒による体育祭を保護者の来場はなしではありましたが実施する事ができました。ただし、保護者の皆さんにはライブ配信により観覧してもらいました。9 月には文化祭を予定していますが、開催方法については未定です。今後もいずみ会のご協力をお願いします。」

【平井 PTA 副会長ご挨拶】

「今年、高校入学式がなくなった 1 年生の保護者です。生徒数は 120 名で少ない年代です

が、仲良く学校生活を送っています。久しぶりに全学年で開催された体育祭は、教職員も楽しく参加されていました。PTA 活動はコロナ禍の影響で縮小していますが、その中で制服のリサイクルを年 2 回実施しました。今後も学校支援活動を行っていきますので、いずみ会とも連携を図っていきたい。」

【議長選出】

議長に田中昇次評議員（高校 13 期）を選出し、以下の議事は議長に委ねられた。

議事録署名人選出：議事録署名人として井口和子評議員（高校 20 期）、清水蓮也評議員（高校 69 期）を選出した。

【第 1 号議案―令和 3 年度事業報告及び収支決算の承認の件】

山川事務局長より令和 3 年度事業報告がスライドを使って説明された。

- * 令和 3 年度定時評議員会（令和 3 年 5 月 31 日に書面審議の形式で開催）
- * 理事会、監査会等の活動（昨年に引き続きウェブ形式での会議を開催）
- * 活性化に向けての取り組み（具体的活動は実施できず）
- * 会報の発行、広報活動の充実（会報 65 号発行、ホームページの内容充実）
- * 総会及びホームカミングデー（新型コロナウイルスの影響で開催中止）
- * 財政管理（収入：72.6 万円減収、支出：124.6 万千円減額、収支：21 万円黒字）
- * 会員情報の整備（74 期の名簿作成及び配布）
- * 母校・PTA との連携（具体的活動は実施できず）
- * 人材バンク活動（職業講話講師：6 名）
- * 役員改選準備（選挙管理責任者に山本理事を選出）

山口会計部長より令和 3 年度収支決算報告がスライドを使って説明された。

当期収入は 358.8 万円で予算額よりも 72.6 万円少なかった。当期支出は 337.8 万円で予算額よりも 124.6 万円少なかった。当期の収支実績は 21 万円の黒字となった。収入科目に対しては、入会金はほぼ全員の卒業生から集金できた。会費の当期入金分及び寄付金については予算額を下回る結果となった。令和 2 年度と令和 3 年度の当期会費実績を比較してみると、入金者の数で見ると昨年度は 319 名であったが、本年度は 159 名と大幅に減少したことが分かる。また、寄付金についても昨年度より 75 万円程度少なくなっている。令和 2 年度は例年に比べて収入が増えた状況であり、令和 3 年度の収入は令和元年度の実績に戻ったとも言える。支出科目に対しては、総会及び役員・評議員会費用は、開催中止、ウェブ開催等により支出は抑えられた。広報費は会報の発行部数の削減、発送者数の見直しにより減額予算に対してさらに支出を減らすことができた。母校連絡費及び会員活性費は活動自粛により大幅に支出が減った。母校支援費は学校活動縮小に応じて支出が生じる活動が無かった。貸借対照表上では資産を 4.3 万円増やした状況となった。

続いて、議長から布施百合子監査役、水野國雄監査役、妹尾和夫監査役の 3 名の紹介があり、監査役を代表して水野國雄監査役から令和 3 年度監査報告がなされた。

「監査報告書」に記載の通り、会計は正確に処理されており事業報告についても適正で

あると認める。理事の職務執行において不正行為等は無かったが、特定理事の頑なな自己主張により会議運営の妨げとなった事の指摘を受けた。

監査報告の後、第1号議案に関して以下の質疑応答が行われた。

〔質問〕 貸借対照表の預金残高に記載されている定期預金を預けている取引先金融機関が変更になっているがこの理由は何なのか？

〔回答〕 従来は三井住友銀行武蔵関支店で定期預金を預け入れしていたが、法人口座の内容変更する場合の手続きが当該支店ではできなくなった。そのため他の支店まで出向く必要があり、煩雑となる手続きを解消する目的で当該金融機関に変更させてもらった。

その後、議長が裁決を求めて、第1号議案は事前行使者 102 名の賛成を含めて賛成多数で承認された。

【第2号議案―令和4年度事業計画（案）及び予算（案）承認の件】

山川事務局長より令和4年度事業計画（案）がスライドを使って説明された。

事業計画立案にあたっての状況説明があり、その後各事業計画について項目ごとに説明された。

- * 令和4年度評議員会（令和4年5月28日開催）
- * 理事会、監査会等の活動（理事会業務の細分化等による多様人材登用の場の拡大）
- * 活性化に向けての取り組み（「40歳の集い」の企画化と開催支援等）
- * 会報発行、広報活動（会報66号発行予定）
- * 総会及びホームカミングデー（令和4年10月29日開催予定）
- * 財政管理（会費納入実績に応じた会報の限定発送の継続）
- * 会員情報の整備（高校75期の名簿作成、配布）
- * 母校及びPTAとの連携（母校創立80周年記念行事の支援）
- * 人材バンク（会員相互の活性化に向けたイベントの企画）
- * いずみ会創立80周年行事における企画内容を検討する

山口会計部長より令和4年度予算（案）がスライドを使って説明された。

令和3年度予算及び実績を参考に令和4年度の予算案を策定した。本年度の収入予算の会費については令和3年度実績から昨年度予算額から23万円減額し、総額はほぼ前年並みの405.4万円とした。支出においては、広報費を令和3年度の実績から推定し、前年度予算に対して10万円程度さらに減額した。母校連絡費は令和3年度の実績は無かったが例年並みの予算を計上した。会員活性費は同期会等の支援を厚くする事業計画に合わせて5万円を増額し、母校支援費に新たに80周年事業支援の科目を増やして100万円の予算を計上した。ただし、この予算は令和3年度に一部支出が発生しているので差額の90.4万円とした。その結果、当期支出総額は543.5万円となり、当期収支は138.1万円の赤字予算となった。

山川事務局長、山口会計部長説明の後、第2号議案に関して以下の質疑応答が行われた。

[質問] 母校支援費の80周年事業支援費の一部を令和3年度に支出されているとの事だが決算書のどこに計上されているのか？

[回答] 決算書の予備費の科目で11.4万円支出している中に含まれている。

[質問] また、80周年事業支援費が本年度90万円予算化されているが内訳は決まっていないのか？

[回答] 学校からの要請により予算内訳が決まるので、その内訳はまだ決まっていない。

しかし、前回学校との打ち合わせの中で、在校生に送る記念品と記念誌についてはその総額をPTAと折半で支援して欲しいとの話があった。また、記念講演を池上彰氏にお願いしており、その講演会費用も支援して欲しいとの事である。ただし、いずみ会から支援できる金額の上限は100万円と伝えている。

[質問] 貸借対照表上いずみ会の資産は2300万円ほどあるが、この中には前受会費が含まれているので実質使えるお金は1300万円くらいではないか。今年の予算で80周年事業支援の100万円を除くと40万円程度の赤字となり、これが複数年続くと実質資産の1300万円は目減りしていく。次回90周年には、まだ100万円程度の母校事業支援は可能だが、今後の資産状況をどう見ているのか？

[回答] 以前より継続している課題であり、毎年の支出を節約しながら無駄をなくす事に心がけている。一方、会費納入や寄付のお願いで収入を増やして、少しでも赤字にならないように努力を続ける。

[質問] 2年後にいずみ会80周年事業もあり、この費用の支出はどのように考えているか？この費用支出も加算すると更に財政状況は厳しくなると思われる。また、70周年の時はこの事業を「5の会」主体で行ったが、この考えは踏襲されているのか？

[回答] まだ具体的な事業内容は決まっていないが、本年度より新しい理事の中で議論していく。また、周年事業を実行してもらう期は「5の会」では無く、コロナの影響でずれた期を含めて考えている。

その後、議長が裁決を求めて、第2号議案は事前行使者102名の賛成を含めて賛成多数で承認された。

【第3号議案―いずみ会規約改正の件】

山川事務局長より「いずみ会規約」に関する改正案がスライドを使って説明された。

改正については以下の内容である。

第4条 3項の「名簿の発行」を現状の実務に合わせて、「名簿の維持及び更新」に改める。

第7条 評議員の直近5年間の活動実績を評価して、まったく活動実績のない評議員の解任条件を明確化した。

第10条 評議員会の開催方法において、昨年の規約改正で書面形式での開催について
明記し承認を得たが、記述内容が不十分であったため再度改正案を上程した。

山川事務局長説明の後、第3号議案に関して以下の質疑応答が行われた。

[質問] 今回7条の改正で評議員から外れる方が多い期では、これを機会に現評議員に
活動継続を依頼する積りであるが、この改正の実行を遅らせてもらえないか？

[回答] あくまで評議員は資格ではないので、本人の継続意思が確認できれば評議員へ
の再登録はできるので実行を遅らせる必要はないと考える。

[質問] 7条の規約改正の表現で、主語が「・・・連絡の無い評議員は」で述語が「・・・
の任を解く事とする。」は日本語としておかしい。

[質問] 今回10条の改正の中で、従来通りの対面形式で評議員会が開催された場合、
第15条の委任に関する条文は変わらないのですか？書面審議では事前決議と
なったが、対面の場合においても事前決議が可能なのでしょうか？

[回答] あくまで評議員会は対面で行うことが基本であり、不在者投票のような議決権
行使の方式は好ましくないのではないかと考える。この事を踏まえて15条の
見直しを検討する。引き続き検討するが、今回提示した改正案での決議をお願いする。

その後、議長が裁決を求めて、第3号議案は事前行使者 102名の賛成を含めて賛成多数で
承認された。

【第4号議案__いづみ会個人情報取扱規定見直しの件】

山川事務局長よりいづみ会個人情報取扱規定見直しに関して見直し理由がスライドを使っ
て説明された。

当初、内規扱いとして作成された「いづみ会個人情報取扱規定」は、その内容が一般会
員に関わるために規定として公開したが、改定手順が規定内に定められていなかった。
また国の法律として制定された「個人情報保護法」の要求事項を満たしていない事も判
明し、一般組合活動等で取り決められている「個人情報取扱規程」を参考に全面見直し
を行った。同時に、従来の「規定」から取扱い範囲の広い「規程」に名称も変更した。
その後、議長が裁決を求めて、第4号議案は事前行使者 102名の賛成を含めて賛成多数で
承認された。

【第5号議案__いづみ会役員選任の件】

山本選挙管理責任者より、役員選任手順として候補者の推薦及び立候補者の募集は会報 65
号での掲載及びホームページへの掲示により行い、本年1月31日に締め切り15件の推薦
メール（立候補者は0件）を受け付けた旨の説明があった。メールでは複数名の推薦もあ
り、理事候補者16名、会計監査役候補者3名が推薦を受け、その後、当人への承諾を得た
結果として次期理事及び会計監査役の候補者名が紹介された。

その後、議長が裁決を求めて、第5号議案は事前行使者 101名の賛成を含めて賛成多数で
承認された。

【報告事項】

○母校創立80周年行事について、荒井会長から話があった。

母校の高校創立80周年及び附属中学10周年の行事を10月3日に開催予定である。しかし現状のコロナ禍において規模を縮小して実施する事となった。会場も校外の会場を利用する計画であったが、学内に変更となった。周年行事の一部である池上彰氏の講演会については、受講する在校生はオンラインにより各教室で受講する事となった。

○「0の会」からの報告は、「0の会」会長の20期関屋氏に代わって50期の植村氏が関屋氏からのメッセージを代読した。

5月20日に「0の会」会合をZOOMミーティングで行い、会合には「0の会」会長を含め、総務部長の真柳氏、30期の山本氏・藤井氏、40期の伊藤氏、50期の植村氏、60期の糀谷氏の7名が参加した。「0の会」は総会前後のホームカミングデー、懇談会の運営企画を担当する期として働くことになる。3年間に渡るコロナ禍から明けて会をどのように行うかが課題である。ホームカミングデー、懇談会とも状況によっては中止もありうることを加味して企画する事になる。会場および想定される人数をもとに会報原稿作成の8月頃までに理事会にて開催意思を決定する必要がある。この決定をもとに「0の会」メンバーは開催時の進行アイデアを提供する事となる旨の話があった。

以上を持って、審議・報告事項を終了し、議長を解任。田中氏は降壇した。

【閉会の辞】

(参加者全員でテープ音源に合わせて校友の歌を黙唱)

小倉扶美子理事より令和4年度定時評議員会の閉会が宣言された。

以上

議事録署名 議長 田中 昇次 ㊟
令和 4年 7月 22日

評議員 井口 和子 ㊟
令和 4年 7月 25日

評議員 清水 蓮也 ㊟
令和 4年 7月 30日